

報告

これまで検討されてきている、入所施設等からの地域移行について、引き続き検討を行いました。

**1. 地域移行**

○モデルケースをもとに、地域移行に必要なことについて「見える化」を作成しながら、必要なことについて検討を行いました。

意思確認のマニュアル：

- ・入所施設の現場とサービス管理責任者、計画相談、行政等との間で、ご本人の意向確認を図るための連携や役割分担のあり方について、マニュアル的な整備が必要と思われる。

細かい地域生活の体験機会：

- ・ゴミ出し、郵便受け取り、昼ごはん外食、社会の音を聞く等々の地域生活体験が、短時間から、何泊でも、何回でも、出来る部屋があると良い。

得意・興味への支援：

- ・好きな事を見つける体験が出来ると、その後の生活の意欲向上等に繋がる
- ・モデルケースの場合は、料理への興味を、地域の料理教室への参加等と繋げて、地域とのつながりが作れると良い。

住むところ：

- ・保証人が居なくて借りられない課題があるため、三重県あんしん賃貸支援事業等の活用等が必要。

ご家族への支援等の連携：

- ・ご本人への支援にあたっては、ご家族への説明は必須であるが、これらを進めていく上での支援の主体と役割分担の在り方を検討する必要がある。

インフォーマル支援の重要性（友達、見守り）：

- ・地域の友達等の存在は、地域移行後も必要だが、初期段階の地域に出たい気持ちの向上にもつながっていく大切なもの。
- ・ヘルパー等の公的サービス以外の、地域の見守り、寄り添ってくれる人がいると良い。

地域と本人とをつなぐ：

- ・地域への自己紹介機会があると良い。
- ・地域性に応じた説明をする必要が出てくる。
- ・本人が地域から孤立してしまわないように、橋渡しが必要。
- ・一般の知らない人が疑心暗鬼にならないように、子どもたちに先入観等を植え付けないように、適切な理解、大丈夫だという理解を、自治会の総会などで説明していく必要がある。
- ・地域の避難訓練、一斉掃除、お祭り等に、迷惑かけるので行くなではなく、地域と出会える大切な機会にしていく必要がある。
- ・お互い一人暮らしの高齢者とかなら、支え合える部分もあるのではないかな。

入所施設支援と地域支援とのつながり：

- ・特に成人の入所施設の利用者や支援者は、本当に地域支援と触れ合う機会が少ない。
- ・この「見える化」の作業を通じて、どのように入所施設がスキルアップを図っていけるか期待したい。

⇒入所施設職員の地域支援見学ツアー：

- ・入所施設職員が地域移行した方(退所者)の生活を知るツアーが出来ると良いのではないかな。
- その中で、地域資源を見たり知ったりする機会となると良い。

各分野の詳細版見える化の必要性：

- ・相談支援関係や入所施設内支援は、詳細な役割分担や連携等の整理が必要であるため、別途詳細版などが必要かもしれない。

今後について：

- ・「見える化」は、作っていく経過が大切であり、誰と一緒に作っていくかが大事である。
- ・制度で決まっている事は、他で既に示されているため、それらを参考にしていく。

⇒今回を第 1 回目として、今後を、誰とどのように作っていくか等を検討しながら進めていくこととする。